

■倉田康男 建築家。商品化された建築に背を向け、{高山建築学校}の運営に生涯を賭けた。

くらたやすお

金融恐慌・・・1927＝ 東京に生まれる。

満州事変・・・1931＝ 4歳：

二二六事件・1936＝ 9歳：

日中戦争始・1937＝10歳：

日米開戦・・・1941＝14歳：

敗戦・・・1945＝18歳：

朝鮮戦争始・1950＝23歳：\_東京大学工学部建築学科を卒業し、同大学旧制大学院に入学。

独立回復・・・1951＝24歳：

自衛隊発足・1954＝27歳：\_在籍のまま、海老原建築設計事務所に入所後、大学院を中退。

美智子妃・・・1959＝32歳：アメリカ合衆国・中南米の建築を見る旅に立ち、

安保闘争・・・1960＝33歳：

TV宇宙中継始1963＝36歳：

東京リビック 1964＝37歳：フランスでプレキャストコンクリート技術の展開状況をみて、帰国。

大学紛争始・1965＝38歳：大江宏の招聘で、法政大学工学部講師となる一方、有限会社倉田研究室を設立。

いざなぎ景気1966＝39歳：\_海老原建築設計事務所退所。

この間、日本電子株式会社の一連の施設(工場・厚生施設・クラブハウス・パリ展示場・USA本社など)

震ヶ関ビル・1968＝41歳：東京小金井に、\*思うところを実現すべく、私塾{ピンクハウス}設置し、

この間、馬里邑本社ビル(東京田園調布)や陽輪台の一連の集合住宅(横浜・田園調布・松濤)。

日中国交回復1972＝45歳：\*満を持して、高山建築学校を開校。

石油ショック1973＝46歳：

角栄金脈辞任1974＝47歳：ビラ蓼科の一連の施設(リゾートマンション・ホテルなど)。

JALハイジャック・1977＝50歳：元赤坂タワー(東京赤坂の集合住宅)。\_高山建築学校本校舎建設用地を取得。

成田衝突・・・1978＝51歳：\_高山建築学校研究基地建設用地を取得。

革新大敗北・1979＝52歳：\*日常業務としての建築設計活動を一時休止し、建築に関しての一切の活動を高山建築学校での諸活動と法政大学での教育活動に限定。また、建築音響の基礎研究を開始。

貿易摩擦始・1980＝53歳：\_大阪にシステムメンテ工業株式会社を設立し、音響建築の設計・責任施工業務を開始。東京・大阪・高山間を移動する日々がはじまる。高山建築学校でセルフビルドを始め、以降、一連の造型物。

・・・1981＝54歳：\_東京で高山建築学校写真展「ロングパス」開催。

中曽根内閣・1982＝55歳：

ドイツ統一・・・1990＝63歳：

55年体制終・1993＝66歳：

自社さ連立・1994＝67歳：システムメンテ工業株式会社を休止し、

金融破綻・・・1997＝70歳：法政大学での最終講義。

・・・1998＝71歳：法政大学を定年退職。

石原都知事・1999＝72歳：\_{ピンクハウス}が解体され、マンションが建設されるなか、高山建築学校を続けたが、

・・・2000＝73歳：\*東京で没した。'タカヤマガッコウ、ドースル'と病床で文字盤を指で指したのが最期の言葉であった。